臨床検査技師の DMAT 隊員として活動を行う有用性

～能登半島地震支援を通じて～

◎佐藤 翼[1)]、市川 由布子[1)]、東 薫[1)]、日比野 祥子[1)]、池田 望[1)]、水野 光[1)]、海住 博之[1)]、坂下 文康[1)]
三重県立総合医療センター[1)]

【はじめに】災害時の急性期に医療支援を行うチームに DMAT が存在する。DMAT は医師、看護師、業務調整員にてチームが構成され、臨床検査技師は業務調整員に分類される。業務調整員は病院機能維持を行う為の本部活動や各種情報収集といった事務的な活動がメインとなるため、診療に携わる機会も少ないとされている。その為に多くは事務職員であるように考えられるが、同僚の勧誘もあり、私は DMAT 隊員としての活動を行っている。

【活動】2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震では甚大な被害が発生し、数多くの団体が救助、支援に向かう形となったが、その中でも DMAT による対応は発災当日より行われた。私自身、今回の災害において 1 月 2 日より 4 日間、1 月 10 日より 5 日間、1 月 30 日より 5 日間と計 14 日間の支援に行かせていただいた。この派遣期間で行った活動は市立輪島病院支援、避難所支援、DMAT 調整本部活動と主にこの 3 つであった。この中でも避難所支援は業務調整員としての活動だけでなく、インフルエンザ・COVID-19 の迅速キットによる検査も多くあった。

【考察】業務調整員としての活動はもちろんだが、迅速キットを主とした POCT は臨床検査技師が業務調整員を兼ねることにより採取から判定まで完結させることが可能になると考えられる。また、病院支援における検査室での応援対応も可能となる。臨床検査技師としての技能、知識が活かせる場面が多くあったように感じ取れた。

【まとめ】業務調整員は基本的には医師と看護師以外の職種にて担っていることが多いが、その中でも臨床検査技師の数は少なく感じていた。特に三重県内における臨床検査技師の DMAT 隊員は非常に少なく感じており、主観にはなるが 5 人にも満たない状況にあると思われる。今後の臨床検査技師の活躍の場として DMAT 隊員となってもらえる人が増えていってもらえればと思う。

Tel:059-365-2321　　e-mail:kenntai@mie-gmc.jp